

県立市川特別 支援学校視察

浦安市内に早急に設置を! 党市議団 県教育長に申し入れ

週刊 日本共産党
市議会報告

2015年12月7日

第1351号

【発行】

日本共産党
浦安市議団

☎ & F A X

350-1243



市議会議員
元木美奈子

入船 4-37-14
☎ 355-8526
minamotonton@
jcom.home.ne.jp



市議会議員
美勢 麻里

北栄 2-3-16-203
☎ 354-9269
m5mise@jcom.
home.ne.jp

党市議団は先月16日に県立市川特別支援学校を視察し、20日に県教育庁へ県立特別支援学校を浦安市内に早急に設置するように申し入れを行いました。

過密化深刻な問題

現在、浦安市立小中学校特別支援学級及び通常の学級では、障がいのある児童生徒の在籍数が年々増加傾向にあり、浦安市に隣接する県立市川特別支援学校へも多くの児童生徒が通学している状況となっています。

教室が足りないため 廊下が作業スペースに

プレハブ校舎が使用され、教科別、用途別などに用意される特別教室は、調理室以外の教室が本来の使われ方ではありません。

廊下に移動した図書館は間仕切りが取り付けられ、更衣室としても活用されています。別の廊下では作業が行われ、大型の備品の置場となっています。

障がい者を2以上併せもつ児童生徒で構成される重複学級は一学級当たり児童生徒3人以下が基本です。

ところが、教育課程の違う、単一の障がいをもつ児童生徒の一般学級と一緒に授業などが行われる部分もあるのです。

来年度は更に20名の児童生徒が増える見込みですが、転用できる教室はもうありません。

県立養護学校分校設置を 求める意見書可決から10年

浦安市議会は、2005年3月に、日本共産党の発議提案「浦安市に県立養護学校の分校の設置を求める意見書」を採択しています。

浦安市も2007年4月に特別支援学校として学校教育法に位置付けられてからも分校整備を県に繰り返し要望し続けていますが、実現していません。

学校への移動に 1時間半も

市川特別支援学校は主たる対象が知的障がいのある児童生徒のため、知的障がいや肢体不自由のある児童生徒のご家族から、専門的な設備や保健師などが配置された県立船橋特別支援学校への通学希望が増えています。本市からは渋滞等で通学時間が1時間半かかり、児童生徒には、心身への負担が懸念されています。

当市に居住する障がいのある児童生徒が、地域で暮らし、障がいに応じた適切な指導と必要な支援を受け、発達する権利を保障するために、特別支援学校、小中学校、医療・福祉機関などの専門機関が連携協力し支援するためネットワークづくりが求められています。